

バイカル湖のご馳走

ロシア民謡でも知られるシベリアのバイカル湖。世界一の深さと貯水量を誇る神秘の湖は、淡水に棲むアザラシをはじめ、独特の生態系をもつ。完全に淡水化したサケ科の魚オムリもその一つだ



バイカル湖でのキャンプにはオムリが欠かせない〈オリホン島〉

二〇〇一年からロシア連邦ブリヤート共和国で、フィールドワークを実施している。この共和国はモンゴル国と接しており、その名称もモンゴル系のブリヤート人に由来する。しかし、現実には、共和国人口一〇〇万のうち約七割を東スラヴ系のロシア人が占めていて、約三割のブリヤート人を大きく引き離している。また草原(ステップ)のイメージが強いものの、じつは世界最大級の

バイカル湖にも接しており、沿岸地帯では漁業や製紙業も発達している。バイカル湖は断層の活動によって形成された「地溝湖」で、二五〇〇万年以上前に海から切り離されたと考えられている。琵琶湖の四七倍の面積を持つこの湖は一九九六年に世界遺産に登録され、多くの観光客をひきつけている。私も村落調査や観光で何度もバイカル湖を訪問し、その雄大さに魅せられてきた。

味わい方いろいろ

バイカル湖に行ったらぜひ味わってみたいのが、オムリである。オムリは淡水魚ではあるがサケ科なので、その風味はフナやコイとはまったくちがう。たっぷり脂肪のつったオムリは、あっさりしたサンマ、サバといった味わいで、海の魚が好き日本人にはもちろん、淡水魚になれたロシア人にも、そして肉好きで知られるブリヤート人にも人気が高い。オムリは塩焼きにしたりパイに入れたりするが、わたしが好きなのは日本では珍しい燻製だ。ブリヤート人の知人は、塩漬がお気に入りだという。

あたる魚!?

オムリはいたみやすい



沿岸の村では、バイカル湖、修道院、オムリを村章のモチーフにしている〈ポソリスコエ村〉

沿岸地域では庭先に干された漁網をよく見かける〈オイムル村〉



魚なので、流通網が整備されていないシベリアでは、新鮮なまま遠くまで運ぶことが難しい。わたしがよく訪問する共和国南部の村も湖から離れているため、オムリはあまり一般的な食材ではないが、それでもたまたま生や塩漬のオムリを売りに来る者があるという。

生活を支える

ある年の冬、いつもお世話になっている家に行くと、夏に家族全員がオムリにあたり、隣村の病院に担ぎ込まれたと聞かされた。いろいろな機会に食べてきた魚であるが、じつはかなり危険なのである。去年再びその家に行くと、上の娘さんが結婚したという。お相手とは食中毒で入院した病院で出会ったのだそうだ。まさに「あたり」の魚であった。ちなみに、この家族はまたオムリを食べはじめたらしい。

漁業は昔から沿バイカル地方の大産業であり、沿岸地域に住む人びとの生活を支えてきた。その傾向はソ連崩壊後の生活難のなかでとくに強まっている。年金制度や就労シテムが危機的状況に陥ったとき、オムリをはじめとするバイカル湖の魚は人びとの貴重な栄養源になってきた。漁業組合の賃金は十分な額ではないものの、個人的に魚を売ればそれ相応の現金収入が得られる。人気の高いオムリならば、さらなる高収入を見込むことができる。

私はバイカル湖畔の村に滞在したとき、村全体が南部のステップ地帯と比べて豊かそうに驚いた。村で一人暮らしをするおばあさんは、「この村では魚が手に入りやすいから、

オムリ (Omul)

Coregonus migratorius
ロシア連邦、シベリア地域南部のバイカル湖に生息するサケ科の淡水魚。北氷海に生息するものと区別して、バイカル・オムリともいう。成魚は普通35~40cm、重さ1kgほどになる。9~11月頃、バイカル湖に流れ込む川を遡上して産卵し、再び湖に戻る。19世紀から乱獲によって生息数が減少し、絶滅の危機に瀕した1960~70年代には数年間漁獲が禁止されていた。(写真・朝獲りオムリ)



なんとか生きてこられた」と話してくれた。宿泊した家の主人も失業中ながら、早朝に一人ボートで湖に出てオムリを獲り、食卓に供してくれた。かつて訪問したステップ地帯の村の人が、「ウシを売ってもあまり儲けにならないし、自分が草を食べるわけにもいかない」と言っていたことが思い出された。魚は自分で育てる必要もなく、すぐに商品化できる有利な資源である。だからこそ乱獲も進んでいる。人びとも資源枯渇を心配しているが、密漁はたえない。湖の環境汚染も、オムリと住民の体を蝕んでいる。おいしいオムリがいつまでも獲れることを、現地の人びともわたしも願っている。

夕焼けのバイカル湖に漁船のシルエットが浮かび上がった〈オイムル村〉



いがうえなほ
伊賀上菜穂
中央大学総合政策学部准教授
専門は民族学(文化人類学)、ロシア史。ロシア連邦、とくにシベリアのブリヤート共和国を中心に、ロシア人とブリヤート人の民族間関係や、ロシア正教の一派である古儀式派の現状について調査している。